

## 「まるで、子どものケンカだ」

2017年04月21日

北朝鮮は「朝鮮民主主義人民共和国」というが、民主主義でも共和国でもなく、金王朝の独裁国家である。5回の核実験を行い、ミサイルは長短、失敗も含め、数十発発射している。潜水艦からミサイルを発射した時は、世界が驚愕した。国連安全保障理事会は違法とし、声高に制裁決議をしてきたが、効き目はなく、核とミサイル実験を続行している。中国の経済制裁がきちんとしていないからだと言われている。

北朝鮮は朝鮮戦争の休戦協定を平和協定に変更することを一貫して求めている。要するに、米国に北朝鮮の存在を認知せよと言っている訳である。米国は「テロ国家」と烙印し、一顧だにせず、応答していない。そればかりではなく、米韓合同軍事演習を毎年、膨大な兵力と火器を費やして行っている。北朝鮮に対する圧力は相当なものであろう。核を持たなかったイラク、リビアは米国を中心とした多国籍軍に攻撃され、指導者であったフセイン、カダフィは殺され、現在、両国は收拾のつかない混沌状態になっている。イスラム諸国の混乱は米国のイラク攻撃が主因である。大国の軍事力がテロリズムを増幅させている。

北朝鮮は米軍に攻撃され、イラク、リビアのように国を抹殺されるのではないかと恐れている。ならば、核とミサイルを持ち、米国と対等に渡り合いたいと考えるのは当然であろう。微力な海軍、空軍しか持てないので戦争はできない。核とミサイルに特化して、国の存続をかけている。小さく、貧しい国だから「そうだろうな」とうなずける部分もある。イソップ童話の「俺のお腹は大きい」と膨らませるカエルのようなものである。

米国は軍産共同で、戦争しなければ、経済が回らない構造になっている。世界中で、戦争を起こしてきた「暴力国家」の米国は現在、航空母艦を中心とした攻撃艦隊を北朝鮮に向け、強力な圧力をかけている。戦闘状態になれば、朝鮮半島はもとより、米軍基地のある日本も甚大な犠牲者と被害が出る。この米朝の緊張関係を俯瞰すれば、「まるで、子どものケンカ」のように見える。知性のひとかけらもなく、現実を直視し、歴史を展望する視点はまったくない。

北朝鮮では金王朝を守るために、国民は瀕死の状態に置かれている。金王朝賛美のために駆り出され、食料不足も深刻である。北朝鮮国民の強いられた苦難を、ひたすら思う。養殖のナマズを貴重な蛋白源にしているというから、推して知るべしである。

日本は戦争中、天皇のために死ぬことを強要され、末期は、国体の護持、天皇（制）を守ることができれば、国民はどうなってもよいとした。敗戦時、皇居で土下座し、負けて申し訳ありませんと、天皇に涙を流して、謝罪したのだ。金王朝のために何でもいたしますと強要された悲劇を理解できるのは日本ではないか。

米国は膨大な核兵器を保有し、世界中、どこでも攻撃できるミサイル発射態勢を日常的に構えている。核保有国は核の拡散防止に必死であるが、身勝手さは見苦しく、イスラエルのように、核保有を黙認しているダブルスタンダードの状況もある。北朝鮮に核を持つな、ミサイル発射をやめろとは言えまい。言えるのは、国体護持のために国民の命と生活を犠牲にした経験を持ち、核も攻撃ミサイルも持たない日本である。「子どものケンカ」を仲裁し、北朝鮮を国際社会に連れ出す方策を提示すべきではないか。権力者同士の意地の張り合いを止めて、互いを受け入れ合う道は必ずある。それが、平和な未来を作り出す知性である。無批判に米国に追従する安倍政権に期待できないが、生きている人間がいることを忘れてはならない。